

新型コロナウイルスのもとでいっわたしはこう過ぎしてきました・こう過ぎしています~

(vol.5) コロナな日々

会員 坂 仁根 (70期)

私の「コロナな日々」は、3月のとある休日に始まった。横浜市郊外の広い幹線道路沿いをジョギングしてたら、コンビニ袋をぶら下げ3日くらい着替えていないようなおじいさんが正面からやって来た。距離が狭まると、いきなり私を睨みつけ、犬でも相手にするように「しっし」と手で追い払うようなしぐさをする。気が付くと、ポケットのマスクを着け忘れていた。「マスクをせねば人にあらず」を実感した最初の日だった。

4月、ゴールデンウィークの家族旅行のため一か月前の発売開始に合わせ、早朝からみどりの窓口に並んだ。狙うは伊豆・下田行き豪華特急列車「サフィール踊り子号」6人個室グリーン席。並んだ甲斐あり見事にゲット! 2週間後、予約していた下田の宿から電話があった。「コロナで当分休館します」。プラチナチケットは藻屑と消えた。

5月、遊びに行けないので、連休中もずっと一人事務所で仕事をしていた。連休最終日の6日、夕方から雷鳴とどろく大雨になった。神田駅前に行ってみると、午後6時というのに飲み屋は軒並み閉まっている。一軒、立ち飲み屋風のカウンター居酒屋が開いていた。入ると店員の女性が「食べ物は缶詰

だけですが」と聞く。地獄に仏か女神様か、もちろんOK。ほかに客はいない。缶詰3個に酒を3杯頼んだら、お会計はなんと6千円。どう考えても普段の2倍だ。二度と入ってやるもんか。

連休明け、飲み屋もやってないし、ということで、 修習同期10人くらいでZoom飲み会をやった。時間制限がないので「宴会」は日付が変わるまで延々 続く。翌日二日酔いになった。

6月,京王高尾山口駅に直結の温泉「極楽湯」 が再開したというので、高尾山に登った。目指すは 「三密の道」の「苦抜け門」(写真)。時節がら観光

名所になってるかとしてるから、人ってってるから、門をくぐっているが、今になかが、何もなが、何もが、でがない。3年目にはないながない。苦」だらじか、とても世生に構えてははいいののはない。「苦抜い、「あが待ち遠しい。

